ぎかい。

小国町議会だより　第110号

2011.10.15

表紙写真／萱野峠の敷石掘り交流会

平成22年度 決算を認定

主な内容

- 9月定例会概要　2～3 ページ
- 決算審査特別委員会Q&A　4～5 ページ
- 委員会レポート　6 ページ
- 議会の動き・請願　7 ページ
- 一般質問　8～11 ページ
- まちかどインタビュー　12 ページ

小国町議会

ホームページ　http://www.town.oguni.yamagata.jp/gikai/index.html
e-mail　gikai@town.oguni.yamagata.jp

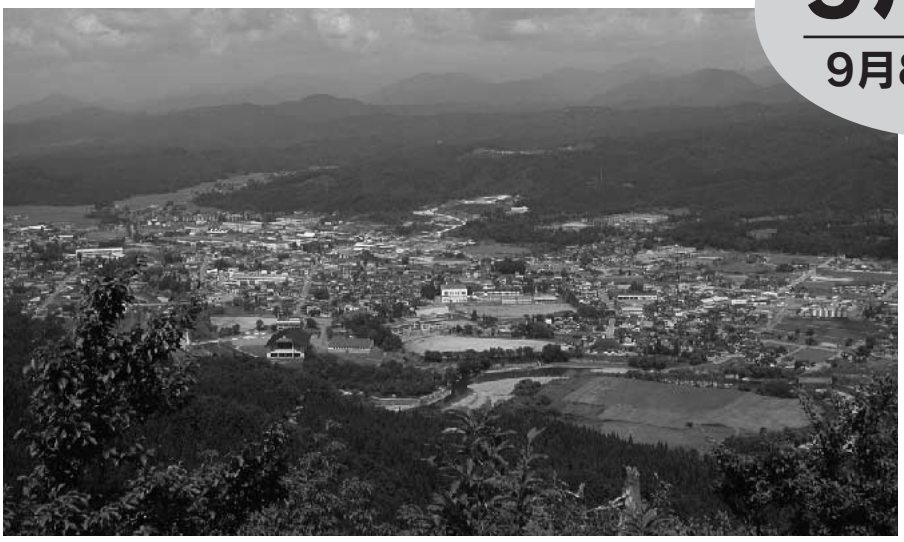
小国町議会　検索

有効に使われたか

平成23年度 ９月定例会

９月８日㈭～15日㈭

９月定例会は８日間の日程で開かれ、22年度一般会計の決算、23年度一般会計補正予算・特別会計補正予算・病院事業会計、条例の一部改正、財産取得、人事など29件を審議し、原案どおり可決・採択した。一般質問は４名の議員が当面する諸問題を町長に質した。その他２件の意見書を関係機関に提出した。



▶健康の森より小国町を望む

総　額　82億9千835万円

一般会計決算　61億2千681万円

前年度対比 1.04%増　**2億6千271万円増**

一般会計決算

- **議会費**　8千301万円
- **総務費**　12億2千768万円
- **民生費**　11億7千653万円
- **衛生費**　4億3千865万円
- **労働費**　5千182万円
- **農林水産業費**　2億1千543万円
- **商工費**　3億6千933万円
- **土木費**　9億1千409万円
- **消防費**　2億3千288万円
- **教育費**　5億8千258万円
- **災害復旧費**　1千531万円
- **公債費**　8億1千951万円

特別会計決算

- **簡易水道事業**　1千565万円
- **国民健康保険事業**　7億8千489万円
- **部落有財産**　360万円
- **下水道事業**　3億4千799万円
- **訪問看護**　8千260万円
- **介護保険**　8億4千693万円
- **後期高齢者医療**　8千986万円

臨時議会

7月27日臨時議会が開かれ、専決処分・一般会計補正等9千360万円追加を承認。

◇耕地小規模災害復旧費補助金

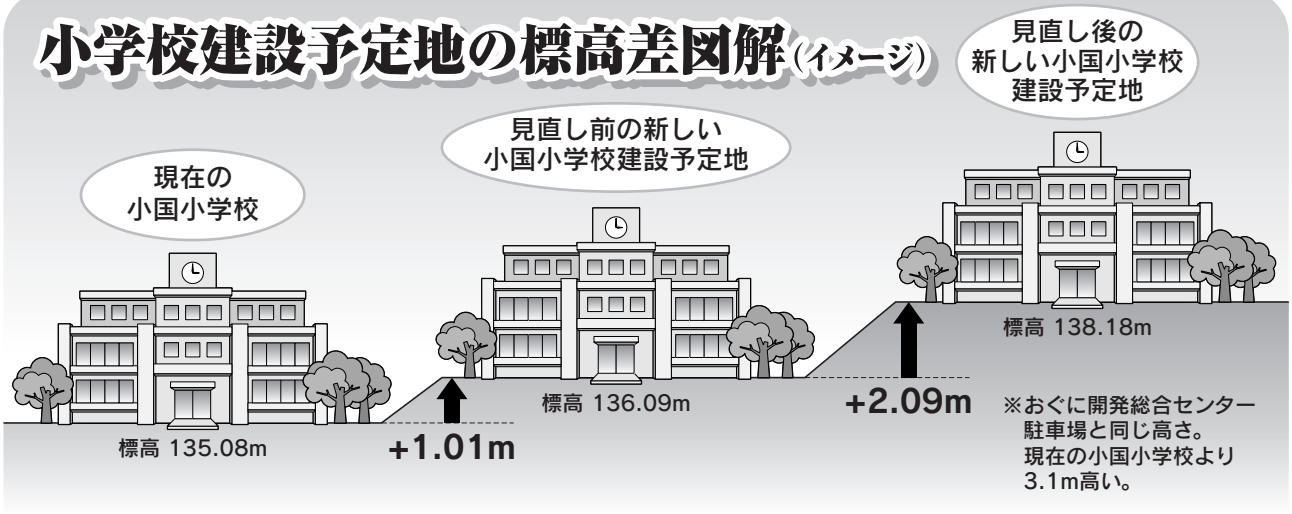
◇既存水路排水体系調査費

◇農業施設災害復旧費

◇住宅リフォーム支援事業

平成22年度 決算認定 町民のため

小学校建設予定地の標高差図解（イメージ）



新小国小学校建設予定地 総合センター駐車場レベルまで盛土し安全策とる！

平成23年度補正予算

一般会計補正

総額４億７千９００万円追加補正を可決

◆学校建設用町有林伐採経費

◆小学校建設用地内の擁壁・水路工事

質疑　齋藤議員

３・11大震災以降、町民は予定地が中学校やセンター駐車場より低いことを心配している。

センター駐車場くらいまで上げるべきではないか。

答弁　教育長

センター駐車場レベルまで盛土し地盤を高くする。

質疑　齋藤議員

盛土し地盤を高くするためには、今回の補正予算では足りないと思うが、対応策はどのように考えているのか。

答弁　教育長

積算して不足が生じた時点で補正の提案をしたい。

特別会計補正

◆簡易水道事業

◆国民健康保険事業

◆下水道事業

◆介護保険

◆稲発酵粗飼料収穫機械整備事業

◆山形県消防補償等組合負担金

◆その他

採決　賛成多数

事業会計補正

◆病院事業

条例の設定

◆水源の郷交流広場設置条例

◆市野々イチョウ広場設置条例

◆税条例一部改正

財産の取得

◆スクールバス一台

予定価格　６０７万９千円

教育委員

今正逸氏（再任）の任命に同意した。

人権擁護委員

鈴木恵子氏（再任）の推薦に意見を求められ適任と認めた。

質疑応答

―総務企画課―

Q　集落支援員（緑のふるさと協力隊）配置の成果は？
目的を明確にして活用しなければならないと思うが。

A　玉川に2名配置した。農作業の手伝いや地域の行事への参加などで、新しい風を吹き込んでくれた。地域のよさが見直され、一緒に頑張ろうという空気が出てきている。

Q　移動通信（携帯電話）不感地域は解消したのか。

A　樋倉、貝少、百子沢、朝篠の山手、下大石沢・上大石沢の一部が残っているが、順次解消に努める。

Q　町民の声を政策に反映させるために大事な広聴活動の実態は？

A　町政懇談会2地区で開催、町長と語る日は月平均1～2件の来訪、ホームページへのアクセスは年間9千600件ほどあるが掲示板への返信は、これまで1件である。

―町民税務課―

Q　ゴミ排出量の現状は？また、1人1日100gの、減量作戦の達成状況は？

A　南陽市に次いで置賜ワースト2位である。減量作戦は、平成20年427g、平成22年は408gと若干減量している。

Q　デマンドタクシーの実証成果は？

A　利用者が増えており、玄関先から利用できることで好評である。

Q　国民健康保険税の滞納状況は？

A　滞納金4千580万円、滞納件数2千468件である。年収200万円以下の低所得者の滞納が大部分である。

―産業振興課―

小国ポイント会　宅配サービス車

Q　中心商店街共同宅配サービス事業費補助金の実態は？

A　共同宅配サービス事業は、小国ポイント会が主催して行っている買物弱者対策である。平成22年度は車を1台購入し、職員を2名雇用。年間3千600回、1か月平均30回の利用があり、460万円の売上げ実績がある。

Q　ナラ枯れ対策で、伐採後の植栽状況は？

A　森林再生の手法について検証するため、玉川地内の町有林跡地にブナ・ミズナラ約600本を植栽した。

―地域整備課―

Q　幸町町営住宅の老朽化が目立ち危険なようだが決算額の少ない金額で十分な修繕が出来たのか？

A　幸町町営住宅に関しては、老朽化が進み新しい住宅の計画を立てているところで修繕費を極力抑えている状況である。あけぼの地区に建て替え予定の新しい住宅は、現在の家賃の約三倍の家賃となり、なかなか話し合いがまとまらない現状である。早急に具体化できるように検討していく。

老朽化が進む幸町町営住宅

―教育委員会―

Q　休校校舎の管理委託料にバラツキがあるが、どのような基準で決めているのか？

A　校舎の規模や利用状況等を勘案のうえ、算出している。

今年度休校の伊佐領小学校

Q　スポーツクラブYuiが設立され活動しているが、今後の取り組みへの支援は？

A　町民の健康・スポーツ活動の一層の推進のために、自立できるような支援をしていく。

―町立病院―

Q　改革プラン2年目の評価は？

A　改革プラン中の財務に係る数値目標は、全てクリアすることができた。改革プラン最終年度である平成23年度も、現段階では順調に経過している。改革プランが終了する24年度以降も目標を定めながら進める。

Q　電子媒体（電子カルテ）での連携について

A　公立置賜総合病院との医療連携について、当初、電子カルテを直接つないで連携をする方法を検討していたが、諸般の事情により困難となった。医療機関が保有している電子化された医療情報を、インターネット経由で見にいき、必要な情報を見せあうというシステムを活用した医療連携サービスに、積極的に取り組んでいく。

―健康福祉課―

Q　支え合いほっとライン事業について

A　社会福祉協議会が主体となって取り組み、福祉カルテの作成や安心見守りサービスを展開した。引き続き、一人暮らしの高齢者等の実態把握と台帳整備等を行いながら、在宅における見守り支援に努める。

Q　軽度生活援助事業（除雪費支援）について

A　限度額を倍増し、134世帯の方々に総額684万円を支援した。委託先のシルバー人材センターでは、今冬の豪雪を教訓に地域の賛助会員を確保するなど、除雪要請に応えるための体制強化を図っている。

屋根の雪ほり作業

決算審査特別委員会報告書

9月8日、本委員会に付託された平成22年度の小国町各会計の決算審査について、9日、12日及び14日の3日間にわたり関係課長等の出席を求め審査した結果、次の意見を付して認定すべきものと決したので、小国町議会会議規則第41条の規定により報告する。

1　経済不況が続き、若年層の生活保護世帯の発生など町民生活の困窮が進み、町税等未収金の増加がある中で、平等性の確保に向けての収納対策について努力が感じられた。

2　期待の高い事業であるにもかかわらず、取り組みの成果が明確に表現されていない部分があり、残念であった。

3　事業の執行にあたっては、民間的手法も検討し、より効果的に執行されたい。

4　小国ポイント会の宅配事業を始めとして、各事業について各課をあげて横断的に評価し、効果ある事業を果敢に執行されたい。

平成23年9月15日

決算審査特別委員会
委員長　高野健人

小国町議会議長　伊藤重廣　殿

委員会レポート

Committee Report

総務厚生委員会は、自主防災組織に目を向けた。文教産建委員会では、今後の商店街の在り方に着目した。

防災資機材

総務厚生常任委員会

本委員会は、六月定例会の議決に基づき所管に係る視察を行った。

1 視察年月日
平成23年7月28日から29日まで2日間

2 視察先
新潟県柏崎市
新潟県小千谷市

3 出席議員
高野健人・齋藤弥輔
小関和好・今　正徳
米野貞雄・伊藤重廣

4 視察概要
小国町における自主防災組織の組織率は県内最低レベル約32%。組織率をいかに高め、安全な地域づくりを推進していくか、何れも100%近い組織率を実現している新潟県柏崎市並びに小千谷市を視察した。

両市とも中越地震を機に自主防災組織の必要性を強く感じ、組織率が飛躍的に伸びている。

両市とも行政の援助を受け、自分たちの会費で組織を運営していた。しかし、両市は近接しているにも関わらず組織の構成や活動は、独自の方法をとり地形や街並みにあった防災組織・防災活動をしていた。

「災害が起きた時、公的機関の救助を待っていては被害が大きくなるばかりである。自分たちの安全は自分たちで守るという自助意識が被害を最小に抑える手段だ。」という言葉は実感がこもっていた。

異常気象の頻繁な昨今、小国町でも一日も早い防災組織の充実が必要と痛感してきた。

今回の視察を終え、総務厚生委員会では、小国町の条件に合った防災組織の設立に向けた早急な取り組みを要望する。

地区防災組合長の説明

文教産建常任委員会

8月2日に本委員会を開催し、所管事務調査を行った。各所管課からは、①小国町水道ビジョン、②小国の企業動向（コバレントマテリアル㈱）、③小国小学校建設関係等について説明を受けた。

8月30日、今年度活動方針の一つ「中心街の賑わいづくり」のテーマで、商業関係者との懇談会を行った。①宅配事業の実態、②アスモ二階駐車場のあり方、③ポイント会の運営等、多くの意見が出された。それを踏まえて今後も課題整理と話し合いを重ねることとした。

喜ばれている宅配サービス

商業関係者と意見交換

日中の商店街

請願

今定例会には、3件の請願が提出された。

総務厚生常任委員会1件、文教産建常任委員会に2件が付託された。本会議における議決結果は次のとおり。

＝総務厚生常任委員会＝

■原発からのすみやかな撤退を求める意見書提出の請願

議決結果　採択

▽請願者

長井市四ツ谷1の5の13
西置賜革新懇話会
代表世話人　今泉義憲

＝文教産建常任委員会＝

■小学校統合の母体「新しい小国小学校」の建設予定地の変更を求める請願

議決結果　不採択

▽請願者

小国町大字小玉川576
小国の教育環境を考える町民会議
代表　横山隆蔵　外7名

■小国町農業振興に対する支援の強化を求める請願

議決結果　採択

▽請願者

小国町大字針生字原田254の3
JA山形おきたま農政対策小国地区本部
本部長　伊藤憲一

意見書

■日本海国土軸の構築と社会資本整備を求める意見書

日本海国土軸の早期構築に必要不可欠な社会資本の整備を早期に図られるよう強く要望する。

■原発からの撤退を求める意見書

日本政府が原発からの撤退を決意し、様々な条件整備を行うこと。

以上2件について、地方自治法第99条に基づき、実現を求める意見書を決議した。

▽提出先

内閣総理大臣ほか関係機関

議会の動き 7月 8月 9月

■定例会

9／8～9／15
第8回定例会

■臨時会

7／27
第7回臨時会

■議会運営委員会

7／26
第7回臨時会の運営について
9／1
第8回定例会の運営について
9／15
第8回定例会最終日の運営等について

■総務厚生常任委員会

7／6
所管事務調査（町民税務課）
自主防災組織について
7／28～29
視察研修
8／23
視察研修報告について
9／8
決算審査特別委員会について
9／9
請願審査

■文教産建常任委員会

7／11
委員会活動方針について
8／2
委員会活動方針について
8／30
所管事務調査
（地域整備課）
水道ビジョン等について
（産業振興課）
企業の動向等について
（教育委員会）
小学校建設関係等について
商業関係者との懇談会
9／9
請願審査

■議会広報特別委員会

9／8
広報編集方針等について
9／9・12・14
各課決算審査内容について
9／22
広報編集作業
9／29
広報編集作業
10／6
広報編集校正

■決算審査特別委員会

9／8
決算審査特別委員会の設置等について
9／9
決算審査
（総務企画課・町民税務課）
9／12
決算審査
（地域整備課・教育委員会、産業振興課）
9／14
決算審査
（健康福祉課・町立病院・老健施設）
意見のまとめ等について

西置賜行政組合議会

西置賜行政組合議会では、8月29日に組合が所管する施設の視察を行った。

長井消防本部で新型の消防車による泡消火を見学し、白鷹分署・おいたま荘・飯豊分署・小国分署の順に視察し、各施設における課題等を調査した。

委員　遠藤和彦
齋藤弥輔
小関和好

新型消防車による泡消火

どうなる「町内雇用」
コバレントの今後は？
積極的な企業誘致を

小関和好

小関和好 議員

コバレントシリコン事業譲渡売却について

小関 コバレントマテリアルは、当町の基幹企業である。シリコン事業の譲渡売却とは言え、今後町に与える影響は甚大であると考える。

当局としては、どのようにとらえ、今後想定される事態に対しての対策を考えているのか。

町長 この度の事業譲渡は、将来的にシリコン事業とセラミックス事業それぞれが拡大発展を図る為の判断であったというふうに聞いている。

コバレント社は、今後、経営資源をセラミックス事業に集中させ、その競争力の維持、強化を図っていく方針であるので、町としても、引き続き支援していきたい。

今後想定される事態に関してであるが、就業場所や労働条件は、これまでと同じ環境で維持されると伺っているので、直ちに雇用等に影響が出る様な事はないとのことである。

町としては、今後とも、企業の存続・安定雇用を第一に考え、譲渡等の動向については、より綿密な情報収集に努め、状況に応じて、可能な対応を行っていく。

企業誘致に関して

小関 この度の3月の震災で生産できなくなった企業を地元に誘致している市町村があると聞いているが、小国町としてはそのような動きがあるのか？

また、今後そのような行動を起こす気があるのか。

町長 例年、山形県が開催している首都圏の製造業を営む企業等を対象とした、県の投資環境や産業振興などを紹介するセミナーに参加をし、ＰＲ活動に努めてきた。

しかし、本町にあっては、地理的な条件などによる課題も多く、新規参入を含め

コバレントマテリアル株式会社

た企業誘致がなかなか進まない現状である。そのような状況において日本重化学の敷地内に新日鉄マテリアルズ株式会社が立地される事と伺っている。さらに大幸テック株式会社においても事業拡大が図られたと聞いている。

そうした既存企業における雇用環境の拡大あるいは事業場の拡大といった動きに期待しながら、支援を行ってきたところである。

この度の大震災では、国を挙げて就労支援企業支援に取り組んでいるところである。

町としては、こうした動きが被災された企業の一刻も早い復旧、復興につながり、被災地域が安定的に復興する事を願いながら、避難者に対して、可能な範囲で支援していきたい。

新小国小学校建設用地 更に安全対策を！

＝子育て支援医療費、流雪溝改修＝

小林　嘉

小林　嘉 議員

現予定地の安全策を示せ

小林 6月定例会の建設予定地財産取得の提案に、私は反対の立場をとった。理由は、3・11東日本大震災の甚大な被害を見た多くの町民の方々から、予定地での安全確保や建設予定地の見直しを問われ、返答に窮する状況にあったためである。実施設計に入る段階で、町長自ら安全確保の根拠を示し、町民に丁寧な説明をしなければならない。

土手に土止め工事を施す

町長 現予定地は、五箇所の候補地の中から、有識者懇談会、町民懇談会などで意見をいただき、最終的に建設に最も適した場所として決定したもの。一級河川横川に隣接している場所であるが、護岸高は羽越水害を想定した雨量を越える高さで整備され、さらには、百年に一回の確立で起こりうる大雨による浸水想定区域外にあるので、安全性は十分確保できる。

今年の東日本大震災や各地の豪雨を踏まえ、更に安全性を高める手立てとして、護岸高から約3ｍの土手を築き、法面に土止め工を施すなど不安解消に努めている。

今後は、保護者等に対する説明会を設け、町民の不安解消に努めていく。

「机上の計算」過信は危険

小林 今年の「6・23集中豪雨」は、1時間降水量52ミリで、羽越水害の約3分の2の降水量でありながら、ひょうろう淵周辺の水位は、羽越水害を想定した護岸高までであった。自然の脅威は、机上の計算通りにはならないという実例だ。

土砂堆積しゅんせつ願う

町長 経年で土砂が相当量堆積しているので、県河川管理者に「しゅんせつ」をお願いしていく。学校建設と併せ安全策をとる。

「川の側（そば）は不安」の解消は？

小林 「川の近くで、周辺より一段低いところに建てるのは不安」という町民の不安解消のためにも、中学校側に寄せ、敷地レベルまで上げたらどうか？

実施設計で検討する

町長 いろいろな安全策があるかと思うので、質問者の提案も含め実施設計の中で検討していく。

子育て支援医療費について

町長 県内医療機関の受診に限り、申請が不要な「現物給付」を実施する。

流雪溝の改修について

町長 緑町流末は降雪前に対策を講じ、雪投入口蓋の軽量化も計画的に進める。

土盛り後、新小国小学校を建設するふれあいの家周辺

新しい小国小学校 建設用地の変更を

本間義信 議員

本間義信

本間 私は、3・11の東日本大地震が発生してから、町の現建設用地に対する防災強化策を受け止めて、現在の建設用地に対して賛成の立場に立っていた。

しかし、その後の7月30日の新潟、福島を襲った1000ミリの豪雨を見たときに、それは間違いであったことが分かった。

現在、進められている小国小学校の建設用地は、あまりにも危険であり別の場所に建設すべきと考えている。

学校は、子どもたちの安全、安心が第一である。

3・11の東日本大震災、7・30の新潟、福島の大豪雨、そして今回の台風12号などを考え、あらためて別の用地を検討すべきと思うが、町の考えは。

安全性に十分配慮し、現在進めている用地に建設したい

町長 「新しい小国小学校の建設地は危険であり、ほかの場所に建設すべきと考える」との指摘だが、小国小学校の建設にあたっては、申し上げるまでもなく、学校は未来を担う子どもたちが一日の大半を過ごす施設であることは十分認識しており、改築基本構想並びに基本計画を策定する段階において、建設地の災害に対する安全・安心を第一にという考え方に立って、羽越水害における雨量の想定や、洪水ハザードマップによる浸水想定区域と比較し、安全性を確認のうえ、町民懇談会等での意見の聴取、さらには、議会にも説明し、ご理解をいただきながら総合的に判断して、小国中学校の隣接地を建設地として選定し、実施設計作業に着手した。

しかしながら、今般、各地で甚大な自然災害が発生していることなどから、学校における安全・安心の確保に、一層配慮していかなければならないものと意を強くしているところであり、進めている設計作業において、安全・安心を確保するための対応策を、改めて検討した。

建設地における安全対策について、校舎本体については、当初、鉄筋コンクリート造と木造の混構造として予定していたものを、建物強度を高めるため、骨格は全て鉄筋コンクリート造とし、地震や風雪害等に耐え得るような構造とした。

私としては、今後とも、安全性に十分配慮し、現在進めている建設用地に、新しい小国小学校を建設していきたい。

ふれあいの家と小学校建設予定地

交流人口の増加について
防災対策について

齋藤弥輔 議員

齋藤弥輔

交流人口の増加は

齋藤 平日の宿泊施設や、土日等の町内商店街などは閑散としている。町の活性化を望む時、交流人口を拡大していく施策が必要である。小国町と条件の異なる地域と姉妹協定を結び、お互いの交流を行いながら往来を高めてはいかがか。

お互いの地域の魅力を出しながら交流できれば町の活性化に繋がってくると考える。実態と増加に対する考えは？

特色ある交流事業の支援

町長 過去10年の本町への観光入り込み者数は平成12年度が65万7千人、平成22年度が44万6千人と減少傾向にある。

地域住民や団体が主体となった交流事業の取り組みが交流人口拡大の大きな力であり、本町の優れた風景、豊かな自然、歴史と文化が育んだ人々の心と技が評価され、町民に郷土への誇りが醸成されることになる。地域が持つそれぞれの特色を生かした交流事業がさらに拡大されるよう支援し、推進を図っていく。

ガムラン音楽祭

姉妹協定は

齋藤 小国町と他の市町村との姉妹協定を結ぶなどの打診はなかったか。また、小国町から姉妹協定を持ちかけたことはなかったか？

どこにするか検討

町長 インドネシアとの少年少女相互交流事業を実施してきた。友好関係にある自治体は複数あるが姉妹協定を結んだことはない。姉妹協定締結の目的をなににするのか、また、提携する自治体をどこにするのかなど検討する諸課題があるので、今後の交流活動を積み上げる中でそのような状態に至った場合には積極的に進める。

防災対策は

齋藤 3月11日の東日本大震災や6月23日の豪雨災害などより、町民の防災意識が高まっている。平成22年に発行された洪水ハザードマップの見直しを行うと共に、積極的に防災体制や組織作りを進め、安全安心の街づくりを進めるべきである。

無料の自治体向けのドコモの緊急速報「エリアメール」を導入してはどうか？

エリアメール導入指示

町長 広大な面積と山間部に集落が点在する地理的条件から情報伝達手段として、導入に向け準備を進めるよう担当課に指示した。

新小学校を避難所とするか

齋藤 建設予定の小学校を収容避難所に指定すると考えているのか？

避難所として指定する

町長 新しく建設する小国小学校の建設地は、浸水等に対する安全性を確認しており、また、耐震基準を満たした校舎であり、災害の種類に異なるが、避難所として指定する施設である。

小学校建設予定地

まちかど インタビュー

Machikado-Interview

町の人からちょっとひとこと

井上恵美さん

Q プロフィール

白鷹町出身、平成19年に結婚、岩井沢に在住、県職員。

Q 熱心に取り組んでいることは何ですか？

●現在、仕事で米の栽培指導を行っているのですが、昨年デビューした新品種「つや姫」の持つ品質の高さ・おいしさが十分発揮されるよう、栽培農家の方へ講習会を行ったり、稲の生育状況を調査したりしています。

●また、2歳になる娘の日々の成長ぶりに驚かされる毎日です。

我が家は米と切り花を栽培している農家なのですが、娘は父親の田んぼを見て、「とうとう（父親のこと）すごい！」と褒めてくれたりして、小さいながらも色々と感じとってくれているみたいです。小国町での田んぼや畑、そして豊かな自然に触れながら子育てができる環境は、大変贅沢なことだと感じています。

Q 町や議会に望むことは？

小国町は他市町より保育園の入所環境が大変恵まれており、育休後、仕事へ復帰する際も大変助かりました。

安心して子供を産み、育てられる環境づくりをさらに充実させて欲しいです。

そば畑と雑穀（もちきび）

表紙の言葉

地域の活性化につながる 萱野峠の敷石掘り交流会

玉川中里

舟山武久

戦国の時代から羽越国境の開通に伴い、越後・米沢街道十三峠の整備が進み、多くの人々がその歴史に時を刻んできました。玉川集落から足野水へと続く3・7㎞の峠道は、十三街道の中でも比較的残存度の高い場所として、評価されています。

平成19年から9回の敷石掘りを実施、各方面から参加者を募り、延べ人数500名、約800mの敷石が掘り起こされました。

峠道の整備により、この地を訪れる観光客も増え、案内や問い合わせの件数も多く、関係者は今後に期待を寄せているところです。地域の人が、様々な観光資源を活かし、交流の場を持てることは大変喜ばしいことであり、過疎化が進行する中において、明るい話題の一つとなっています。

今、私達の地域では、閉校になった校舎の利活用や農業体験を入れた新しいグリーンツーリズムへの取組み等、町内外への呼びかけを行い、各実行団体がイベントを開催しています。

地域ができる事を、一歩づつ進め、地域が活性化し、小国町全体が豊かになることを願いながら、今後も活動を続けていきたいと思っています。

次は12月定例会です。傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局（62）2448

編集後記

◆台風15号が各地に爪痕を残し去っていき、この編集後記を書いております。

それにしても今年は、なんと災害の多い事か、異常気象のせいでしょうか？

災害の過ぎるたびに小国の平和な立地条件に感謝するばかりです。

しかし、想定外が想定できる状況になった以上、我が町も覚悟だけはしておかなくてはいけません。自分の身は自分で守らなければいけません。災害時の避難場所や緊急の連絡先等もう一度確認してください。

◆9月の議会は、昨年度の決算をメインとしています。来年度予算は、3月議会となりますので町民の皆さんの声を早めにお聞かせください。

小関（記）

発行責任者
議長 伊藤重廣

議会広報特別委員会
委員長 小林嘉
副委員長 小関和好
委員 齋藤弥輔
委員 遠藤和彦

小国町議会だより 平成23年10月15日発行 発行 山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町二丁目70番地小国町議会 編集 議会広報特別委員会 ☎0238-62-2448 印刷 (有)加藤印刷 ☎0238-62-2259